

開催概要

開催日時：令和 8（2026）年 2 月 1 日（日） 10：00～11：45

開催場所：小金井市市民会館 萌え木ホール A 会議室

参加人数：3 名

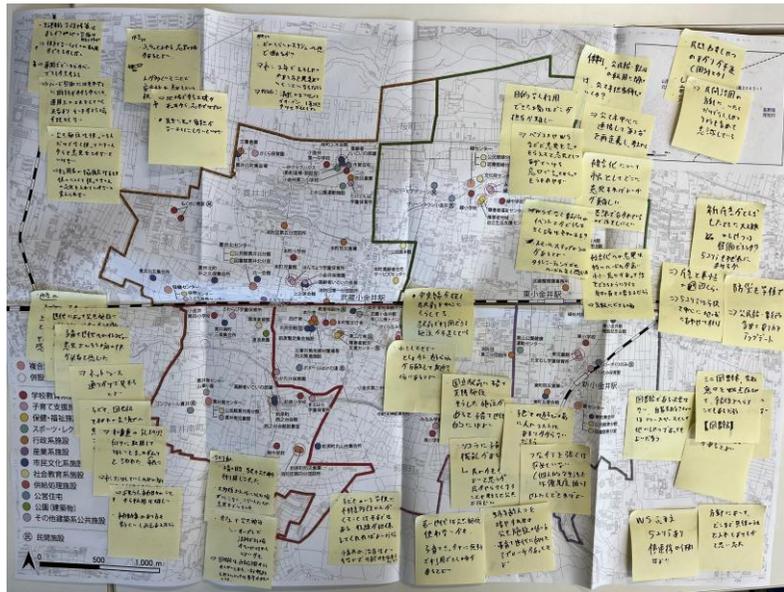
【プログラム】

説明：小金井市公共施設在り方・再編方針（案）について

意見・懇談：小金井市公共施設在り方・再編方針（案）及びこれからの公共施設の在り方について意見・懇談

市から小金井市公共施設在り方・再編方針（案）の概要説明後、意見・懇談として参加者、市職員が同じテーブルで、意見交換を行う形で実施しました。

意見交換を通じて小金井市公共施設在り方・再編方針（案）や、これからの公共施設の在り方について多くのご意見をいただきました。



意見・懇談の結果概要

緑字：参加者からのご意見
黒字：市職員からの回答

【民間施設の活用】

・民間商業施設の一部区画を間借りして、行政サービス・機能を確保することをもっと行ってもよいのではないかと。国分寺市などでは見られるが、小金井市では不足している。施設を新設するよりもコストを抑えられるので今後は検討してほしい。

⇒「第 5 章 1 - 5. 民間活力の活用と官民連携の推進」では、従来の管理委託などだけでなく、民間施設の利用も含めた官民連携をイメージしている。

【地域コミュニティエリアにおける公共施設再編】

・新庁舎の入札が不調となり、今後は大規模な施設整備は難しいのではないかと。そうした状況で 5 つのエリアそれぞれで拠点となる施設の整備を行っていくことは現実的ではないように思う。

⇒各エリアにおいては、大規模な施設は学校程度であり、その学校や他の施設の建替等時に集約・複合化の可能性を検討しながら、公共施設のアップデートを図っていきたいと考えている。

【駅前で利用できる公共施設】

・中央線の利便性が高く、中央線の鉄道駅周辺を中心に生活している人は多くいる。そうした人に向けた駅前利用できる公共施設が不足している。国立駅前には子育て支援施設がある。そうした施設があると子育て世代としてはありがたい。

⇒例えば民間による子育て支援サービスもある。民間サービスだけでなく公共がサービスを提供する必要性は高いか。

⇒民間によるサービスもよいが、民間事業の場合、経営判断により事業が撤退するリスクもあるので、公共による一定のサービス提供はあってほしい。

【これからの公共施設が目指すビジョン】

・交流・つながりの場について、地域とのつながりを望む方、望まない方がいると思うので、つながることとつながらないことも選択できる環境があるとよい。

小金井市公共施設在り方・再編方針（案）に係る市民懇談会 開催報告

緑字：参加者からのご意見
黒字：市職員からの回答

【子育て支援施設】

- ・小さくてもよいので、図書館や子どもの遊び場が身近な場所にあってほしい。例えば国立市の矢川プラスのような施設があるとよい。常にスタッフがいないような子どもの遊び場であれば、管理・運営コストもそれほどかからないのではないか。
 - ・今後の人口減少・高齢化などを考えると生産年齢人口を増やすことが市としても重要であり、そのための公共施設の使い方があってはならないか。生産年齢人口でもある子育て世代に向けたまちの魅力として、子育て世帯に優しい施設があるとよい。
 - ・若い世代は公共施設を使わないかもしれないが、子育てをきっかけに無料で利用できる場があると良いと感じている。
- ⇒世代によって公共施設に求めるイメージも違い、また、子どもの成長によっても求める物が変わってくるだろう。それぞれのイメージをすりあわせて考えていけるとよい。

【図書館】

- ・施設数を減らすという意味では、受取窓口などを有するミニ図書館を地域に点在させることで、図書館としての施設数は減らすこともコスト削減とサービス維持の観点からありえるのではないか。

【学校施設の複合化における留意点】

- ・子どもが通うことを考えると不特定多数の方が利用することに不安はあるが、安全性を行政として確保してくれるのであればよいのではないか。
- ⇒人が多くいることが、防犯性につながるという考え方もあるかもしれない。
- ⇒本方針策定にあたり視察に行った志木市では、児童を地域で見守る土壌があったことで学校施設と他施設の複合化がされていた。
- ⇒小金井市も治安がよくそのようなポテンシャルはあるのではないか。
- ・学校からの理解を得るためには先生への負担がないようにしないといけない。

【短期的な改善方策】

- ・施設整備には時間がかかると思うが、短期的な改善策はあるか。
- ⇒本方針は施設整備等のハードに関する方針を整理しているが、短期的な方策として運用面でどこまで対応できるかは検討していく必要があると認識している。
- ⇒以前、公民館等の和室を乳幼児向けのスペースとして転用することはできないか相談したところ、難しいと回答いただいたことがあった。
- ⇒施設の利用ルール等の観点から難しい面もある。また、公共施設整備において国などの補助を受けている場合、施設の用途が限定されることがあり難しい面もある。市民ワークショップ等でも柔軟な施設利用について意見がでており、方針（案）においてもフレキシブルに利用できる施設をビジョンの1つとしているため、今後の公共施設の再編において考えていきたい。
- ⇒補助事業等の在り方も変えていく必要があるかもしれない。

【公共施設を利用していない人の意見の反映】

- ・こうした場や施設でのアンケートなどは、施設利用者が対象となっているが、公共施設が使いにくいから使っていない人からこそ意見を伺う必要がある。
- ⇒各施設において利用者の意見を伺う場はあるかもしれないが、公共施設を使っていない人からの意見を伺う場はアンケートのようなものしかない。ご指摘の通り、使っていない人からの意見を伺うことも大事な視点であると考えている。
- ・ふらっと立ち寄れる意見を言える場があるとよい。
- ⇒オープンに利用・活動できる場が併設されるとよいかもしれない。

【公共施設に関する行政の体制・窓口】

- ・公共施設の転用や、施設の複合化に関する市の窓口がどこかが分からない。目的なく利用できる場となると、なおのこと担当窓口が分からない。
- ・市民目線ではこうした場やワークショップに参加することはハードルが高い。もっと気軽に参加できる場や仕組みがあると、もっと多くの方から多様な視点での意見をいただけるだろう。